

大学研究室紹介



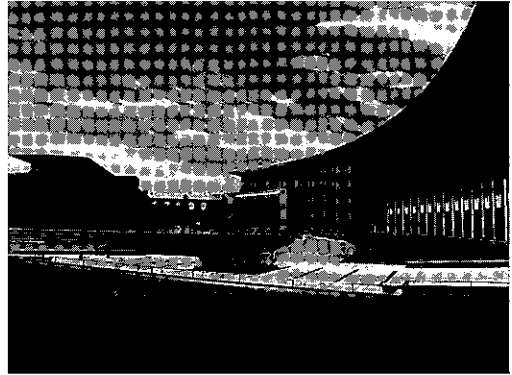
キャンパスだより(3)

秋田県立大学 植物保護学講座

吉 屋 廣 光

所在地：秋田市下新城中野字街道端西 241-7

Welcome to our laboratory of Plant Protection, Akita
Prefectural University. By Hiromitsu FURUYA
(キーワード：病気の発生生態, 分子生態学)



生物資源科学部の中庭

I 新興の生物資源科学部

秋田県立大学生物資源科学部は7年前に発足したばかりの、極めて若い農学・生命科学系の学部である。設立の準備が進められていた頃は、遺伝子工学や分子生物学への期待が膨らむと同時に、大学改革が進められ、農学部の名称が消えていった時期でもある。そのような時代に、それまでの農学科と農芸化学科を発展させた学科(つまり生物生産科学科と応用生物科学科)と生物環境科学科の3学科で未来を見据えた学部として新設されたのである。

大学は秋田市の中心部から北に10 kmほど離れた海岸沿いにあり、キャンパスは防風林として植栽された黒松林に囲まれている。はるか北には白神山地を望み、その手前でやや西に寄ったところに、なまはげが出没する男鹿半島の山々が見える。東に目を転じれば秋田市民に親しまれた太平山とこれに連なる山々、そしてはるか南には霊峰鳥海山がそびえている。世紀の大事業と謳われた干拓事業で姿を現した八郎潟干拓地が車で20分ほどのところにあり、広大な農地で機械化された先進的農業に身近に接することができる。干拓地のなかに大学の学生寮(県立農業短期大学から引き継いだ7階建ての近代的施設)があり、学生の一部がそこに住んでいる。キャンパスから15分くらい歩いて松林を抜けると日本海の砂浜が開けるが、そこは夕日が美しいことが評判で、夕日の松原という愛称で多くの市民に親しまれている。

我々の植物保護学講座は生物生産科学科の7つの講座のひとつとして(小講座*)スタートを切った。初代教授となられた内藤秀樹博士は「植物保護学」の重要性に強い思いをお持ちで、その創設と基礎づくりにひとかたならぬ力を注がれた。これから後のこの拙文

は、そのご努力の一端をお話することになる。

後発であるということ、小講座制であることのほかには忘れてはならないのは県立であるということであろう。発足当時から県の農業試験場あるいは防除所や普及所の方々と交流があり、研究や学生教育にご協力をいただいている。毎年、3年次の学生全員を対象に農業試験場見学会を開いているのもそのひとつの表れである。学生のなかには農業にまったく縁のない者から、末は農業試験場で働きたいと希望している者まで様々であるが、この見学会への関心は高く、貴重な教育の場となっている。また内藤先生の発案で、大学発足の翌年(2000年)から秋田植物保護談話会なる勉強・交流会を開催するようになり、東北農業研究センター大仙研究拠点の方々、県の農業試験場や果樹試験場、秋田県防除所や農業改良普及所(今はこの呼称も無くなったが)に話題を提供していただいている。これには、つい最近まで秋田県立農業短期大学で植物病理学の教鞭をとってこられた松本勤教授のご支持も強い支えとなっている。形は時代によって変わるかもしれないが、今後とも県立大学として地域との望ましい関係を模索していくことになるであろう。

II 学生生活

学部の学生は第6セメスター(3年次の後期, 1セメスターは半年)から各講座に配属される。最初はそれぞれの分野の基礎となる実験技術等を修得し、第7, 8セメスターで卒論研究を行う。例年6, 7名の学生が配属され、10月から菌の培養, 無菌操作, 接種, 分離, それに遺伝子解析の基礎といった基本的な手技

*小講座制は平成18年度で廃止され、19年度から大講座制になります。